

414  
A2008

太政官

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄

1489

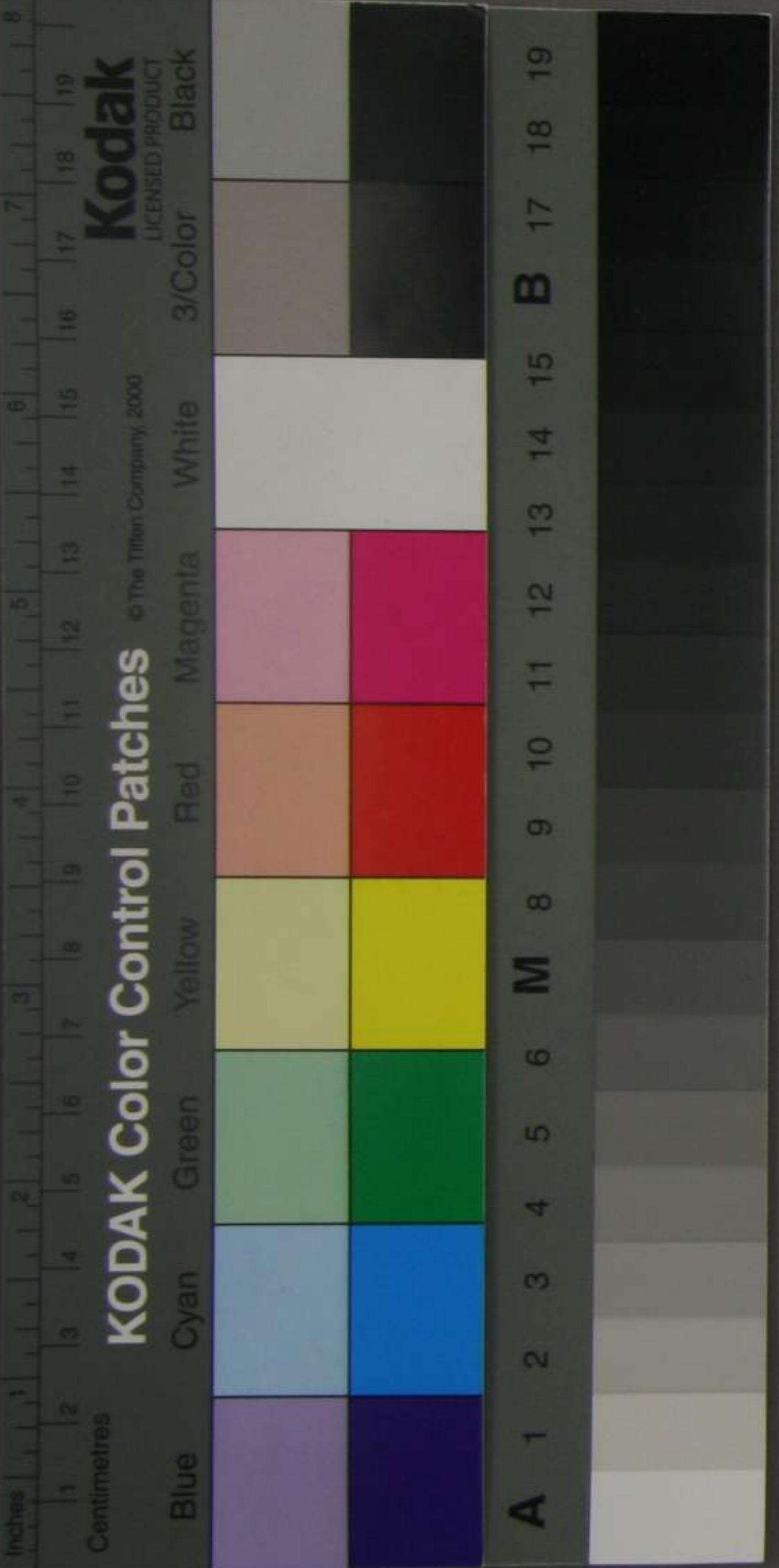
第一條 帝國日本政府ハ太政官ト稱ス官内別テ三部ト  
ス其本部ハ朝廷トス又内閣ニ對シ稱シテ外廷トシ大  
政ヲ總攝シ萬機ヲ決スル所トス

第二條 其一部ハ内閣トシ機務ヲ議定スルノ所トス

第三條 其一部ハ議政院トス事立法ニ係ル者ヲ高裁  
シ利害得失ヲ陳シ外廷内閣ノ處決ヲ輔クルノ所トス

第四條 太政大臣ハ別ニ職ヲ立テス但上ハ以  
一人ヲ輔翼シ下ハ以テ四海ニ儀禮トシテ國ヲ經シ道ヲ

論シ天下ノ大政ヲ統ヘテ方向ヲ立定シ外廷宰臣トシテ



授トシテ之ヲ率井先シテ以テ各ヲシテ其職守ヲ理メ  
シケルヲ掌ル

第五條 大政大臣ノ下左右大臣ヲ置ク左大臣 職大政  
大臣ニ次テ大政ヲ參決スルヲ掌ル若シ太政大臣疾病  
事故アリ朝セサル時ハ之ヲ代理ス又兼テ内務卿ニ任  
シ其部事ヲ總判ス

第六條 右大臣ノ職外廷ニ在リ左大臣ニ同シ又兼テ議  
政院ノ長官ニ任ス

第七條 左右大臣ノ下參議ヲ置キ大政ニ參與シ詔勅ヲ  
宣傳ス其中兼テ外務司法陸軍海軍大藏ノ卿ニ任スル

者アリ又兼テ樞密尚書ニ任スル者アリ又兼任ナキ者  
アリ

第八條 參議ノ下内外史ヲ置キ文牒ヲ署シ楮券ヲ檢シ  
官印ヲ監スル等ニ事ヲ掌ル

第九條 大政大臣ヨリ參議ニ至ルマテ外廷ニ三職ト  
稱ス

第十條 三職ノ内兼テ部事ヲ總判スル者ハ管スル所ノ  
省事ヲ省スル日ニ三時ヲ以テ例トス或ハ先參朝シ或

ハ先出省シ或當該衙門ノ次官ニ分付シテ部事ヲ治メ  
シム皆其且キニ從フ

第十一條 各省ノ卿疾病事故アリ參朝セザル時ハ次官ヲシテ部事ヲ總判シ事ノ上裁ヲ請フヘキ者ハ之ヲシテ奏上セシム然レ次官ハ朝政ニ參スルヲ得ス

第十二條 凡ソ奏上朝裁ヲ請フ者其事立法ニ係ルヲ除クノ外大政大臣首トシテ三職諸卿ト議シ上裁ヲ歷テ宣傳ス

第十三條 凡ソ事新建創立若クハ立法ニ係ハル者ハ大政大臣右大臣ニ屬シ議政院ニ下シ討究最議シ其利害得失ノ係ハル所ヲ陳述シ議草ヲ以テ之ヲ外廷ニ奏セシム

第十四條 其議政院奏スル所ノ議草ハ三職其本議ト議草トヲ取テ廻覽シ更ニ議シテ其事關涉重カラサル者ハ即便上裁ヲ歷テ處決宣傳ス

第十五條 凡ソ立法ノ重大ニシテ關涉廣キ者大政大臣外廷ノ議ヲ聽クノ後内閣ノ議ヲ開キ之ヲ決議ス

第十六條 機務關涉重キ事件ヲ奏上スル者アレハ大政大臣之ヲ反ノ先内閣ノ議ヲ開キ略決議シテ後ニ外廷ニ公議ス

第十七條 各省ノ長次官其他諸官人密事ヲ報奏スル者

ハ先太政大臣ニ申告シソレテ内議ニ附スルト外  
廷ニ公議スルトヲ撰ハジム

第十八條 密事ノ為ニシテ内閣ノ議ヲ開ク時ハ首告ス  
ル人ヲ其議ニ参セシツ實否ヲ糾鞠シ證左ヲ檢討スル  
ヲ法トス

第十九條 其疾人變ヲ上ツル者ハ樞密尚書ヲシテ之ヲ  
討覈セシム

第二十條 凡ソ各年定額ノ事務ハ先議政院ニ下シ條款  
利害得失ヲ查覈シ金額ノ多寡過不及ヲ商量セシメ  
略其區畫ヲ定テ外廷ニ上リ外廷ニ於テ更ニ之ヲ商

議スルノ後各部ノ卿其所管ノ部事ヲ除キ各所見ヲ陳  
議案ヲ以テ大政大臣ニ呈ス大政大臣更ニ内閣ノ議  
ヲ開キ 上裁ヲ歷テ決定ス

第二十一條 凡ソ事各省ノ爭案ニ係ハリ或ハ參議諸卿  
ノ間意見迥異ニシテ和解スヘカラサル者ハ内閣ノ議  
ニ依テ之ヲ決ス

第二十二條 内閣ハ事アルノ時ヲ以テ之ヲ開クヲ法ト  
ス其制大政大臣 出御ニ侍シテ之ヲ習佐シ先議案ヲ  
出シ樞密尚書ヲシテ之ヲ論辨ヒシメ 上裁ニ依テ議  
決ス

第二十三條 樞密尚書

大政大臣ノ奏聞

ヲ歴テ

參議ヲ取

第二十四條 樞密尚書若シ部事ヲ管スル時ハ部事ニ涉

ル議ニ於テ自ラ避退スル法トス

第二十五條 凡ソ内閣ハ閣ヲ鎖シテ議ヲ起シ畢レハ便

散ス預メ内史ノ内ヨリ一人ヲ撰テ樞密史トシ其文書

ハ樞密史ニ附シ鄭重ニ之ヲ貯ヘシメ決ニ至レハ外廷

ニ致レテ史官ニ藏ス

第二十六條 議政院ノ法議員ノ中ニ就テ專議通議ヲ分

ツ其專議ハ内閣法軍藏雜等ノ課ヲ分テ各一人ヲ任シ

身ヲ課事ノ理ノ勉メテ事由連絡ヲ詳悉セシム此人員

ハ成ヘキ丈各省ヨリ取ルヲ要ス

第二十七條 其通議ハ權輕重ナク等上下ナシ議長下ス

所ノ議題ニ就テ自己ノ所見ヲ陳シテ已ム然レテ事故ノ

利害得失ヲ陳スル要シ可否是非ヲ論セス

第二十八條 凡ソ通議ノ者先之ヲ論シ論定テ而後專議

ノ者之ヲ議スルヲ許

第二十九條 凡ソ本議條款多キ者ハ議長先其屬スル所

ノ專議一人ト通議數人ヲ指定シ議草略稿ヲ作ラシメ

而後ニ預メ本議ヲ議員ニ廻覽セシメ後日ヲ刻シテ公座ニ於テ條ヲ逐ニ辨議政院條例ハ別ニ立ツ

第三十條 凡ソ議長ハ己ノ可否ヲ言ハス勉メテ議員ノ論一致セシムルヲ要ス然レ多岐相牾スル時ハ人員ヲ分テ姓名ヲ記シ上ニ其所見ノ概畧ヲ記注シ奏上シテ外廷ノ決ヲ附ス

第三十一條 凡ソ本議事重大ニ涉ル其細日縷錄多少辨解ヲ要スル者ハ本議ノ由ル所ノ長官次官尚其他其當該ノ官人議政院ニ出座シ對手トシテ分疏辨論シ勉メテ事理ヲシテ詳晰議論妥當ナラシムヘシ

第三十二條 凡ソ議政院ノ属非常議員ヲ置ク諸省官人名望高ク學識アル者并ニ大學博士醫員等博聞多通ノ士ヲ撰テ之ニ充テ以テ非常ノ事アルニ亦會議ニ參セシム

第三十三條 議政院ノ下國史地誌政表翻譯等印刷ノ課ヲ置キ議長首トシテ之ヲ統轄内外史之ヲ分掌ス

第三十四條 大政官ノ属式部寮ヲ置キ歲時祀典宮殿内儀禮ヲ司シム

第三十五條 大政官ノ属計曹司ヲ置ク計曹六員ヲ任ス等史官ニ同シ中一人キ首座トシ餘各國入國費國債

料記室ノ詠ヲ分掌ス其課内僚屬ヲ置キ課務ヲ任ス

第三十條 國入課ハ地租雜稅直不直ヲ問ハズ既ニ入

タル者ト年階ニ入ルルキ者トヲ算計シ國費課ハ年間

出スヘキ者ト既ニ出シ費ス者トヲ算計シ國債ハ其子

本ヲ分算シ材料ハ國家貯蓄スル所米穀續金材木器械

等算計シ記室ハ文簿ヲ藏ス

第三十條 凡ソ府縣出納ニ係ハリ大藏省ニ報告スル

者ハ副本ヲ具シ計曹ニ報シ各月十日以内前月出納ノ

多寡ヲ報セシメ大藏省ヲ諸省ニ支給スル金額亦然リ

第三十條 各省省内并ニ派出官員ノ給料當給其他ノ

諸費各月當支所毎月十日以内前月ノ費用ヲ算定報

告セシム其材料ニ係ハル者ハ三個月ヲ一賦トシ四月

七月十月一月ニ總算報告セシム

第三十條 計曹首座各月三十日以内前月費支所ノ多寡

其貯蓄ニ属スル多寡ヲ計リ表面ニ記注シ之ヲ大政大

臣ニ進呈シ材料ハ又同月ノ二十日以内ニ之ヲ進

呈ス

第四十條 三職諸卿議政院長官國計ニ就テ多寡算計

ヲ知ルアラムト欲スレバ主管ノ計曹帳簿ヲ示ス

答フ唯財賦貯蓄ノ方増志ノ法等ハ大藏卿ノ權  
可否ヲ献替スルヲ許サス

七省一使

第四 行政官ノ下七省一使ヲ置キ行政事務ヲ分  
掌セシムルヲ左ノ如シ

第一内務 第二外務 第三司法 第四陸軍

第五海軍 第六大藏 第七宮内 第八ヲ開拓使トス

第四 凡ソ内務ヨリ大藏ニ至ルノ六卿、皆參議

之ニ任ス行政ノ事務ニ至ラハ 上裁ヲ請フ者、外悉  
ク其權内ニ在リ

第四 内務卿ハ左大臣之ニ任ス其職邦國ノ政治

治ヲ掌リ、三府六十六縣ノ知事令ヲ統括シ部事ヲ總判  
ス

第四 内務ノ屬ニ學政司ヲ置キ國內ノ學政ヲ總

攝シ大小中學ノ學規ヲ布置スルヲ司ラシム

第四 内務ノ屬教政司ヲ置キ國內ノ神官僧侶ヲ

統轄シ教法ノ政治ニ關涉スルノ事ニ就テ之カ法令ヲ

分布スルヲ司ラシム

第四 内務ノ屬衛生司ヲ置キ國ノ衛生ノ庶務亦

院等ノ事務ヲ司ラシム



第四

内務ノ属ニ政司ヲ置キ國內水利修葺ノ迫  
橋梁并ニ各省ニ属セリ官廨公館ノ修葺修葺ヲ司ラ  
シム

第四

内務ノ属ニ鑛山司ヲ置キ國內金銀諸鑛ヲ  
開キ國ノ利用ニ供シ兼テ人民私信ノ者ニ就テ規例ヲ  
立定スルヲ司ラシム

第四

内務ノ属傳信司ヲ置キ電報ノ便ヲ得セシム  
ムルヲ司ラシム

第五

内務ノ属轍道司ヲ置キ既ニ開業ノ所ノ轍  
道ヲ管轄シ并テ以テ往開クヘキ規例ヲ立定スルヲ司ル

第五

外務卿ノ職外邦交際聘問往來ノ事ヲ掌リ  
鴻臚部ヲ統括シ部事ヲ總判ス

第五

琉球ハ既ニ内藩ニ列スト准ニ推外務ニ属  
シテ之ヲ所轄セシム

第五

司法卿ノ職天下ノ為ニ法ヲ守リ人民ノ為  
ニ枉ヲ正スヲ掌リ天下大小裁判所ヲ統括シ部事ヲ總  
判ス

第五

司法ノ属明法寮ヲ置キ法律ノ原由ヲ講明  
シ律令ヲ撰定フル事ヲ司ラシム

第五

司法ノ属保司ヲ置キ國內警備  
ノ事ヲ司ラシム

理シ或詐ヲ摘シ風紀ヲ守ルノ事ヲ司ラシム

第五 陸軍卿ノ職天下兵馬之進退ヲ司シ

ヲ統括シ部事ヲ總判ス

第五 陸軍ノ属兵學寮ヲ置キ武學生ヲシテ兵學

ヲ講明シ演習調操セシムルヲ司ラシム

第五 陸軍ノ属軍法裁判所ヲ置キ以テ軍法ノ犯

罪ヲ處決スルヲ司ラシム

第五 陸軍ノ属軍医寮ヲ置キ以テ軍醫ヲ教育シ

陸軍ノ醫治ヲ司ラシム

第五 海軍卿ノ職船艦ノ事ヲ掌リ海軍諸港ヲ統括

シ部事ヲ總判ス

第六 海軍ノ属造船司ヲ置キ船艦諸器ノ製造ヲ

司ラシム

第六 海軍ノ属水路司ヲ置キ國內水路海港ノ事

兼テ燈臺礁標等ノ事ヲ司ラシム

第六 其兵學軍医裁判等ノ項ハ陸軍ニ准ス

第六 大藏卿ノ職天下租稅ノ事ヲ掌リ對檢使

收稅使ヲ統括シ部事ヲ總判ス

第六 大藏ノ属出納司ヲ置キ出入ノ事ヲ

司ラシム

第六

大藏ノ屬造幣寮ヲ置キ國內通行ノ貨幣

鑄造スルヲ司ラシム

第六

大藏ノ屬紙幣寮ヲ置キ紙幣ノ事ヲ司ラシ

メ魚銀行等ノ規例ヲ立定スルヲ司ラシム

第六

大藏ノ屬驛遞司ヲ置キ國內驛遞郎傳ノ事ヲ

司ラシム

第七

宮内卿ノ職宮中大小ノ事務ヲ總判ス

第七

宮内ノ屬巧藝司ヲ置キ音樂画图彫刻等ノ

事ヲ司リ以テ國內風ヲ移シ俗ヲ易ルノ政ヲ司ラシム

第七

開拓使長官ノ職北海道開拓殖民ノ事ヲ掌

リ以テ部事ヲ總判ス

總則

第七

凡ソ天下大政ノ上ニ生スル所ノ譴責ハ

尊嚴蹟ス可ラサルノ至尊ニ在ラスシテ大臣大臣其責

ニ任ス

第七

凡ソ太政大臣ヲ任スル專ラ 上裁ニ係ハ

ル唯諮問議政院ニ下ル時ハ數名ヲ撰テ之ヲ奏シ中ニ

就テ裁定ヲ請フ

第七

左右大臣以下ヲ任スル外廷ノ評 歴ニ内

閣ニ於テ 上裁ヲ取リ之ヲ決ス

第七

參議諸卿職守部事ニ於ケル者、上裁

得テ行フ者ナリト雖、自ラ其責ニ任ス

第七

凡ソ大政大臣法ヲ犯ス、アレ時、其罪ノ

公私ニ論ナク、議政院ノ長官之ヲ勅奏シ、上裁ヲ得テ

司法卿ト同シク審實ス

第七

其樞密尚書公罪ヲ犯亦是ニ准ス

第七

左右大臣以下參議諸卿ノ犯セル私罪、司法ニ

附シテ論セシメ、職務上ノ過犯ハ内閣ニ於テ議決ス